

新進現代作家を紹介するシリーズ「ザ・トライアングル」

2021年度のアーティスト

京都市京セラ美術館のリニューアルオープンを機に、新進作家の育成・支援を目指して新設されたスペース「ザ・トライアングル」(北西エントランス地下1階)。リニューアルオープンの1年目より、京都ゆかりの作家を中心に新たな才能を紹介し、市民や観光客など当館を訪れる来館者が気軽に現代美術に触れる機会を創出してきました。2021年度は下記の3人のアーティストを紹介します。2年目となる「ザ・トライアングル」の展開にご期待ください。

宮木亜菜 | みやき あな | 2021年6月29日(火)～10月11日(月・祝)



《眠りのあきらめ》2020年
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでの展示風景
写真：前谷開

宮木亜菜は、自身が作品の一部となって展示空間に滞在するインスタレーションや、パフォーマンスの形式で作品を発表しています。日々の生活で生じる環境の変化や生への葛藤が制作の原点にあり、社会における私的要素と公共的要素との関係性に着目しています。京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで展示された《眠りのあきらめ》(2020年)では、私的な睡眠という行為を公共空間で考察するパフォーマンス作品を発表し、他者がいる空間で、自らが眠りにつく環境を整える実験ともいべき取組が試みられました。自身の身体のある特定の状況に置くことで、その行動や動作、物質や人との関わりが空間にもたらす変容を考察しています。

1993年大阪府生まれ。2016年にロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アート パフォーマンス専攻に交換留学。2018年京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科彫刻専攻卒業。現在、京都府在住。近年の主な展覧会に「類比的鏡」(山中suplex, 2020年)、「transmit program 2020」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA, 2020年)、「ゲンビどこでも企画公募2018」(広島市現代美術館, 2018年)など。2017年度京都市立芸術大学作品展オリジン賞、2014年度京都市立芸術大学作品展奨励賞を受賞。

加納俊輔 | かのう しゅんすけ | 2021年10月26日(火)～2022年1月23日(日)



《Pink Shadow》2018年

加納俊輔は京都嵯峨芸術大学(現・嵯峨美術大学)の版画専攻で大学院を修了し、主に写真を用いるアーティストです。重層的なレイヤーを持つ一枚のプリントから、見るということにまつわる感覚的な反応の不確かさを露わにしてみせます。ある時はユーモラスにある時はクールに、鑑賞者の認識が揺れ動き続けるようなかすかな幻惑をもたらします。近年のシリーズ「Pink Shadow」(2018年-)では、透明フィルムにシルクスクリーンを用い、複雑な工程で立体的な木材の表面に二次元の画像をプリントすることで、物質感のある「写真」の鑑賞体験を呼び覚まします。2014年からは3人のユニット、「ザ・コピー・トラベラーズ」としての活動も注目を集めています。

1983年大阪府生まれ。京都嵯峨芸術大学(現・嵯峨美術大学)大学院芸術研究科版画専攻修了。現在、京都府在住。写真、版画、コラージュ、映像などを用いた作品を制作。2011年にキヤノン写真新世紀2011、第15回岡本太郎現代芸術賞展にそれぞれ入選して以降、継続的に作品を発表している。またザ・コピー・トラベラーズとして「MOTアニュアル2019」(東京都現代美術館, 2019年)などに出演している。

川人 綾 | かわた あや | 2022年2月8日(火)～2022年5月15日(日)



ロンシャン ラメゾン銀座(東京)での展示風景
写真：LONGCHAMP / La Maison Ginza

神経科学や染織などに影響を受けた川人綾は、グリッド状のペインティングを中心に制作を行っているアーティストです。近年はタブローにとどまらず、ロンシャン ラメゾン銀座のコミッションワーク(2019年)に代表されるような壁面全体を使用した大胆なインスタレーションにも取り組んできました。作家が関心を寄せるのは、緻密な手作業による色の塗り重ねによってグリッドを織りなしていく過程で、否応なく生じてしまう歪みや「ズレ」です。これはまた、彼女にとって視覚と認知の複雑なメカニズムが生み出す錯覚(現実とイメージの「ズレ」)にも通じるものです。色彩豊かな無数の四角形による、規則的だが温かみのあるグリッドを通して、認識不可能、制御不能な領域の存在を探っていきます。

1988年奈良県生まれ。京都精華大学芸術学部素材表現学科テキスタイル卒業。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現修士課程、博士後期課程修了。現在、京都府在住。近年の主な個展に「Controlled / Uncontrolled」(Pierre-Yves Caër Gallery, 2019年)、「Aya Kawato Solo Exhibition」(A. lnyedjian Fine Art, 2019年)、主なグループ展に「Crossing Paintings -交差する絵画-」(イムラアートギャラリー, 2020年)など。

【問合せ先】 広報：西谷、平野 pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271

内容は、本事業にかかる予算が議会で成立することを前提としています。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等の社会情勢によっては、会期等が変更になる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。